



飛び立つ力を
ためていた。

不登校と向き合う



文科省によれば、全国で不登校になっている中学生は、2017年度に10万8999人で過去最高です。仙台市では同年度、小学生359人、中学生1,210人でした。高見のり子議員は、一般質問で不登校のことを取りあげました。

高見議員「NHKの報道によれば、日本財団の調査で、教室に入れず保健室などの別室に通っている『隠れ不登校』といえる生徒が約33万人もいる。文科省の調査約11万人とあわせて約44万人の子どもたち、8人に1人が不登校、もしくは不登校傾向ということだ。不登校は、特別ではなく、学校が多様な子どもたちに対応できなくなっているということだ」

郡和子市長「地域の協力もいただきながら、社会全体でいじめ、不登校の問題への取り組みをすすめる。子どもは、未来を明るくする基盤だ」

「学校に行きたくない理由」

文科省調査やNHKアンケートから

「クラス全体の空気がいや」
「学校の勉強の悩み」
「友人関係」
「先生との関係」
「いじめを受けた」
「決まりや校則になじめない」

自由・自主の学校

主人公は子どもたち

高見議員「世田谷区立桜丘中学校は、公立の学校だが、制服がなく校則がほとんどない。あるのは心得として『礼儀を大切に』『出会いを大切に』『自分を大切に』の3つだ。

この学校では、教室に入りたくない子どもは職員室の前など、自分の好きな場所で勉強ができるようになっていて、ハンモックで寝ることができるくらい自由だ。ストレスをなくそうと生徒と一緒に学校を変えていったら、授業に集中できる子が増え、学力レベルも区内でトップクラスになったそうだ。生徒手帳には、子どもの権利条約が記されている。

この学校のように、子どもたち自身が主人公となって自由に自らのことを決めて行動できるような学校づくりをすすめるべきだ」

教育長「学校生活の様々な場面で、子どもたちが自主的、実践的に取り組めるよう指導する」

教員のゆとり

35人以下学級を
小学校でも

高見議員「教職員の多忙化が社会問題になっている。国の調査では、教員は月曜から金曜まで毎日、平均12時間近く働き、土日も働いている。管理強化が進められ教員に自由と余裕がなくなり、そのことが子どもを育む時間を奪ってきた。市はこの間、教員を増やす努力をしてきたが、さらなる増員をすべきだ」

教育長「国に定数改善を求め、加配申請に必要な教員が確保できるよう努める」

高見議員「市は今年度、中学校3年生まで35人以下学級を拡充した。『子どもたちと向き合う時間が増えた』と現場では喜びの声があがっている。現在小学2年生までとなっている小学校での35人以下学級を全学年に広げるよう求める」

教育長「まずは中学校での35人学級の円滑な実施と検証をすすめていく」

多様な居場所を。

学校に行けない
子どもたちをサポートする

「杜のひろば」

高見議員「仙台市適応指導センター『児遊の杜』（別欄参照）が不登校の相談窓口となっている。そこでの訪問対応、個別対応は80人。そして市内7カ所の『杜のひろば』（同）での小集団対応は171人。合計251人の子どもが通っている。全体の定員が200人だから、すでに定員を超え、しかも小中学校合わせて1500人を超える不登校児童・生徒がいる。対応できる居場所と学習権の保障が必要だ」

教育長「今後も適切な整備をはかる」

高見議員「『杜のひろば』は、7カ所のうち4カ所が小学校の空き教室を活用している。市は学校にエアコンの設置を進めているが、『杜のひろば』には、設置する予定がない。設置すべきだ」

教育長「本年度は予定していないが、環境整備は必要であり、エアコン設置を検討していく」

※**児遊の杜**…ひきこもり傾向のある子どもたちの家庭を訪問、支援。また個別に一对一で話をしたり学習したりしながら、学校復帰への支援を行っている。

杜のひろば…小集団での活動が可能なおともたちを受け入れ、月～金に、学校の空き教室や市民センター内に開設。9時半から15時まで。学習タイム、フリータイム、ランチタイムほか。



フリースクール

高見議員「広島県福山市では、学校内に『ふれあいルーム』をつくって教室に入れない子どもの居場所をつくった。仙台市でも、専任で関われる不登校担当教員を配置して、こういった『ふれあいルーム』を各学校に作ってはどうか」

教育長「学校の別室対応は、小学校7割、中学校9割で実施している。支援体制の充実につとめる」

高見議員「学校以外、民間のフリースクールを選択する子どもも増えている。民間フリースクールの運営等にも補助を出すなど支援を」

教育長「大切な居場所と認識している。現在、技術的支援を行っている」

朝ごはんカフェ

高見議員「柳生中学校で朝食を提供する朝ごはんカフェが始まった。第1回目は列ができ、85人の中学生が友だちや地域の人たちと朝食を楽しみ、授業に向かった。放課後カフェをやりたいと準備している地域も出ている。地域や学校でやるという気運があるのなら、市は後押ししてはどうか」

教育長「学校施設の提供などの支援が考えられるが、運営を行う方の確保や地域の合意、食材確保などの課題がある」

養護教諭の複数配置

高見議員「教室に入れない子どもが保健室登校をするケースもあり、養護教諭の多忙化は、深刻だ。市内では、ほとんどの小中学校は養護教諭が1名だ。国に配置基準を見直すよう求めながら、市独自でも複数配置を行うべきだ」

教育長「本市の実情を国に訴える」

高見議員「貧困世帯の子どもの不登校経験率は、一般世帯の6.5倍だ。スクールソーシャルワーカーは、生活まるごと、区役所や医療機関などとの連絡・調整を行い、児童生徒の問題解決にあたるという重要な仕事だ。現在、教育委員会に7人いるが、電話のやりとりだけでも3000件にも及び、訪問は900回と

いう実情。増員が必要だ。非常勤嘱託から正規職員への処遇改善も求める」

教育長「国の動きを注視しつつ、処遇改善の検討を行っていく」

標準学力検査のストレス

高見議員「安倍政権のもとで始まった学力テストは、点数競争を激化させている。仙台では、全国学力テストに加え、市独自に『標準学力検査』まで行っている。10年以上もやってきたのに結果は毎年、変わりなく効果もみえない。新学期がはじまったばかりの4月初めに行うテストは、教員と生徒のストレスの要因になっている。標準学力検査は、やめるべきだ」

子ども食堂で市の助成を受けている団体は、市民センター使用料が無料になります。

高見議員「子ども食堂運営団体のなかには、市の助成を受けないでがんばっている団体もある。市民センター無料対象を、助成を受けていない団体にも広げてはどうか」

市民局長「減免の主旨を運営団体にしていねいに説明していく」